

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100193		
法人名	株式会社 松鶴		
事業所名(ユニット名)	松鶴松江壺番館 (グループホーム)		
所在地	和歌山市松江東二丁目4-32		
自己評価作成日	平成25年11月13日	評価結果市町村受理日	平成26年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=3090100193-00&PrEfCd=30&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんには、自分の家で生活しているように、過ごして頂いています。部屋や館内に居るばかりではなく、自由に外に出られるように日中は、施錠せず、もし、外に出るようなことがあれば、職員と一緒に外出するなど、できる限り楽しく、気持ちよく過せるように支援しています。また、本人のできることは何かを見極め、役割を持つ事により、張り合いのある生活が送れるように支援しています。職員もスキルアップを積極的に行い、元気で明るく、家族のように接しています。また地域との交流の機会を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の一角にあり、周囲の民家と同じ雰囲気です。違和感なく地域に溶け込んでいます。提供するばかりでなく、一人ひとりのできる力を発揮してもらいつつ張り合いのある生活が送れるようにと支援されており、職員は、明るく楽しく家族のように心のこもった介護を行うことを理念とし、共有する中で日々実践に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し、家族のように接し、明るく楽しく心のこもった介護をするという理念を共有して実践している。	地域に密着し、明るく楽しく家族のように接し、心のこもった介護を行うことを理念に掲げており、管理者・職員共に共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内を利用者と散歩したり、地域の神社の祭事にお招き頂いて参加したり、当事業所が地域の方を対象にした夏祭を開催したり、又地域の夏祭りに参加したり、幼稚園児の訪問が定期的にある。	地域の夏祭りに参加したり、神社の祭事に招待されたり、定期的に幼稚園児の訪問を受けている。また、事業所の夏祭りを開催して地域の方に訪れて貰う等、地域とのつながりが持てるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関や窓を開放し、時には日向ぼっこに敷地内に出たり、畑を見に行ったりした時に、地域の人々との挨拶や会話の機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、利用者の状況や設備を見学して頂き、実施行事、予定行事の報告をして、質問や意見を頂いている。	2か月に1回、地区役員や地域包括支援センター職員、家族代表の参加を得て運営推進会議を開催している。実施行事等の取り組みについて報告すると共に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域社協の会長や地域包括センター、民生委員さん達に協力を頂ながら、よりいっそう地域密着ができるよう取り組んでいる。	市町村担当者や地域包括支援センターとは日頃から連絡をとり情報交換を行うと共に助言等を受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体拘束をしている利用者はいるが、緊急性、非代替性、一時性を確認し、ご家族の同意を得た上で実施している。また身体拘束に関する勉強会も実施し、職員も施設外研修に参加している。	管理者や職員は身体拘束の対象となる具体的な行為について正しく理解しているが、家族の同意を得て、入院中の利用者には車椅子のY字ベルトを使用している。	身体拘束を解除することを目標にそれに代わる方法について検討した処遇改善会議の結果の記録や開始時間及び終了した時間とその間の利用者の心身の状態を詳細に記録し、身体拘束をしないケアに取り組まれるよう望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加させ、施設内勉強会を行い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば、研修会や勉強会に参加している。知識を深めて個々の必要に活用していけるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の解り易い言葉で、説明するように心がけている。また、説明の間に確認しながら説明を行っている。疑問点には納得してもらえるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等の意見要望は、随時、職員会議や役職会議にかけ反映させている。	家族には来訪時に意見を出して貰えるようにしており、夏祭りや餅つきの行事では家族に協力を依頼し共に取り組む中で意見聴取の機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で、常に意見の言える雰囲気作りに努めている。できる限り、職員の意見を反映するようにしている。	日常業務の中で十分にコミュニケーションが図れており職員はそれぞれに意見を出すことが出来ている。また、毎日のミーティングや月1回の会議で職員の意見を聴き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護や行事などの相談ができる雰囲気作りに努め、職員がやりがいをもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に介護職員の向上心に繋がるよう、社内外の研修に積極的に参加するよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の研修会や行事では、他の事業所の方との交流を持てる機会作りとネットワークの大切さを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話をする時間作りを行い、また、外出など対応可能なときは、本人の安心感を持てるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、家族の方の話を傾聴し、安心して話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療の連携がいるような利用者の方が居れば、訪問看護と連携しながら対応に努めている。 アセスメントを行うことにより、必要としている支援がが行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見つけ出し、日常生活の中で自然と行えるように声掛けや必要物品の準備など行いながら協力し合いながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来館されたときには、日頃の様子や変わったことなど、本人と交えて話をすることもあり、家族の絆を大切にす支援心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と一緒に自宅へ一時帰宅したり、自宅近くの美容室や理容所へ行ったり、自宅近所の方々や親戚の方々の面会がある。	職員が付き添って一時帰宅したり、本人の懐かしい馴染みの場所に出かけたり、知人などにも訪問して貰い易いように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限り、日中は、ホールで過ごせるように、音楽を流したり、また、日向ぼっこや外出、洗濯物タタミ、食事作りなどの他の利用者の方との交流できる場作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談にきたときには対応するしている。また、お会いしたときには、挨拶を行うなど、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方や家族の方と日頃から会話を行うことにより、例えば、外出や食事メニューなど対応できるように努めている。また、困難な状態であっても、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を日々の表情や言動で察知し、意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者については本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話を通して、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や職員間の会話により、把握するように努め、また、利用者の方にも何をしたいかなど確認しながら、援助するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりのケア会議を開催し、本人、家族、職員、から出た意見や、時には主治医や訪問看護の意見やアイデアを頂き、現状に即した介護計画を作成している。	本人の希望や家族の意向、医療関係者の意見等を取り入れ、話し合いを持つ中で現状に即したライフサポートプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ライフサポートプランを活用し、介護現場に計画書ファイルと見える場所に置き、援助するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動や他の介護サービス事業所との情報交換などを行い、対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に幼稚園児との交流や、訪問、地域祭りへの参加など行ない楽しんでいる。又コミュニティセンターでの高齢者の集い等への参加で、生活を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院の月2回の往診がある。また、今まで受診していた医療機関もあり、継続し、安心して生活が送れるように支援している。	本人及び家族の希望する医療機関を優先して受診できるよう支援しており、月2回かかりつけ病院の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護ステーションが来館し、バイタルチェックや相談など行っている。また、急変時にも、相談し、指示を仰ぐなど対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、相談や入居状況など情報交換を行い、関係づくりに努めている。また、入院時の病状の確認や退院後の支援の相談等の関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り、本人、家族が望む支援ができるように努めている。主治医の意見や家族の望を聞きながら、終末期ケアも行い、その人らしく過ごしてもらえるよう職員間とも話し合いながら支援できるように努めている。	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に説明し理解して頂いた上で必要な場合についてはその意向を確認している。重度化した場合には医師の指示をもらい、全員で話し合いを重ねながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時への対応マニュアルを作っている。また、緊急連絡網を作成し、必要に応じ、早期に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火訓練を行い、職員に身につけるように努めている。夜間を想定した訓練も実施している。訓練時隣接施設の職員方にも参加協力お願いしています。地域の防災訓練にも参加している。また隣接の介護施設に備蓄協力を依頼している。	年2回消防署の指導のもと防火訓練を行っている。今年度は、協力関係にある隣接施設からも職員1名の参加を得て夜間を想定し実施している。また、職員は地域の防災訓練にも参加している。	訓練後、職員会議で話し合っているが、実施内容やその訓練から見えてきた課題、解決に向けた話し合いについての記録が残されていない。今後、災害全般について想定を上げ確実な避難誘導ができるようにさらなる積み重ねが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、言葉に気をつけるように心がけ、援助するように努めている。 相談事や悩み事については、自室や他者が居ない所などの配慮を行いながら支援するように努めている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言動はなく、呼称についても本人や家族の希望に添うようにしており、家庭的な雰囲気の中でも一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方からの訴えがあった際には、どうしてもらいたいのかの確認をし、利用者の方が、話しやすいように心がけている。 受入可能な内容については、対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の利用者の方の希望やペースに添うように努力はしているも完全とは言えない。グループ生活のためある程度強調して頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみをしてあげたいという気持ちがあるが、全利用者の方になかなかできていない状態である。 月1回の訪問カットを利用している方や行きつけの美容室や理容所へ行く方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや刻み、また、食器の片付けなど、役割を持った利用者の方もあり、生き甲斐につながっているようである。利用者と職員が楽しみながら、一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼夕食は殆ど出来上がった状態で届く事になっているが、お好み焼きや焼き肉パーティー、節分の手作りの海苔巻など利用者が楽しく参加出来るメニューも用意されており、菓子や飲み物を自由に選べるおやつ喫茶も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給のチェック表を作成し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なうことを日課とし、出来る人には自己にて、出来ない人には介助にて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、管理しながら一人ひとり各利用者にあった排泄パターンで誘導している。時々見直しをして、トイレでの排泄やオムツ類の減少、自立に繋がるよう支援している。	排泄チェック表で確認しながら時間を見計らって声掛けをしてトイレでの排泄を促している。排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間の情報交換やスキルアップ研修で学習してきたことを勉強会などで分かち合い、健康管理に気をつけるように努めている。また、水分補給やヨーグルトの摂取などの取り組みも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一応入浴日は決めているが、できる限り、今日は、入浴したいとの訴えがあった際には、対応するようにしている。また反対に、今日入りたくないとの訴えにも応じ、明日に延ばす場合もある。	一人ひとりの希望に添って入浴できるよう、支援している。また、入浴剤やゆず湯などの季節を味わえる機会もあり、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の声かけを行い、対応するようにしている。 できる限り、眠前薬を服用せず、自然に睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どういう薬を服用し、気を付けなければならないか分かるように、処方された処方箋を管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてきたことや今できることを声掛けや一部援助を行っている。日常生活での役割(ゴミ集めや食事の準備・片付け、洗濯物干し・畳みなど)を援助を行ったり、他の利用者の方と交流が持てる環境作りに支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見や、近くの公園、ドライブやおやつ外出などを行っている。 地域の初詣やえべっさん、神社の祭り、夏祭には家族も交えて出かけている。	花見やドライブ、おやつ外出、買い物等、よく出かけており、神社の祭りや地域の夏祭りには家族も交えて楽しく出かけている。また、日向ぼっこや近隣への散歩等希望に添って積極的に外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金については、家族の方の希望もあり、預かり金という形で、小遣い帳を付け、事務所にて管理している。買い物・外食や本人の必要な物品の購入時に、できる限り、本人が支払ってもらうように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けたいとの訴えがあった際には、対応するようにしている。認知症の状態もあり、手紙のやり取りは、ほとんど出来ていない状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は開放するようにしている。建物の構造により、密閉感があるが、机の配置や装飾により、居心地がよい環境作りに努めている。玄関前にはできるだけ季節の花を植えるように心がけている。また館内では季節の花を生けたり、季節の飾り物などして季節感、生活感を出している。	共用スペースには手作りされた季節の飾り物などがあり、落ち着いた雰囲気となっている。置敷きのコーナーも設けられており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本は、席は自由にしているが、利用者間で、決められた場所があるようである。一人で居たいときには、自室にて過ごす方もおられる。共有スペースの中で、思い思いに過ごせるような居場所は、建物の行動上で難しいところもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、今まで使用していた物や思い出の物を持って来てもらうように説明している。居室に写真や使い慣れたタンス、仏壇、思い出の琴など置いている。	居室には本人の使い慣れたものや思い出深い物を持ち込んで貰っている。家族の写真やタンス、仏壇、琴などを置いており、一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の掲示や居室名札を付けたりしている。目印になる物を付けることにより、認識できるよう支援している。		